



日産合成工業株式会社 メールマガジン

2020・12 第167号



「光陰矢の如し」とのことわざがありますが、月めくりカレンダーも残すところ1枚となり、もう師走なのだ実感しています。今年を振り返ってみますに、新型コロナウイルス感染症に明け暮れた、歴史に残る年になったことは間違いないようです。お屠蘇気分も冷めやらぬ1月7日にWHOは中国で新型コロナウイルス感染症が発生したと発表しました。その当時は対岸の火事程度と思われていましたが、大型クルーズ船での発症を皮切りに、またたくまに全国に感染拡大し、未だに終息の目途はたっていない状況です。この難局のかじ取りは、船頭多くして船山に登るがごとく、まさに難局です。

ヒトが生きるということは、病気との戦いでもありました。江戸時代の平均寿命は30～40歳であつたろうと言われています。それは乳幼児の死亡率が圧倒的に高かったためです。当時の疾病では天然痘、麻疹、コレラ、インフルエンザ、脚気などでした。たとえば、12代将軍・徳川家慶は男女合わせて27人もの子どもがいましたが、成人まで生き残ったのはただ一人、13代将軍である徳川家定のみでした。「7歳までは神の子」と言われ、6歳を過ぎて子の成長を祝ったのが、「七五三」の風習です。日本人の平均寿命が50歳を超えたのは戦後の1947年になってからです。

このようなヒトの営みや環境の変化を静かに受け止め、見守ってきたのが各地に残る巨木たちです。これは名古屋の熱田神宮にそびえる大楠（クス）です。この大楠は弘法大師が植え、約千年経つと言われています。根はどっしりと大地をとらえ、枝は空中に自由に広がっています。巨木は鎮守の森として守られてきた神社仏閣に現存するものが多く、神が宿るとも考えられています。わが国の巨木の第一位は鹿児島県始良市にある蒲生八幡神社にある大楠で、幹回りが24.2mとかです。ベスト10のうち9本が温暖な地域に分布する楠の木で占められ、九州・四国地域にあります。防虫効果のある樟脳（タンスに入れる防虫剤）は木全体に含まれるため、樹木としての楠木に害虫の被害は少なくなります。その昔、我孫子市にある山科鳥類研究所を訪問した際、貴重な鳥類の標本が、この樟の木の標本タンスに収納されていました。来たる年は、無病息災で過ごせることを願うばかりです。



さて、ニッサンメールマガジン第167号をお届けします。

牛はライブコミュニケーションを好む

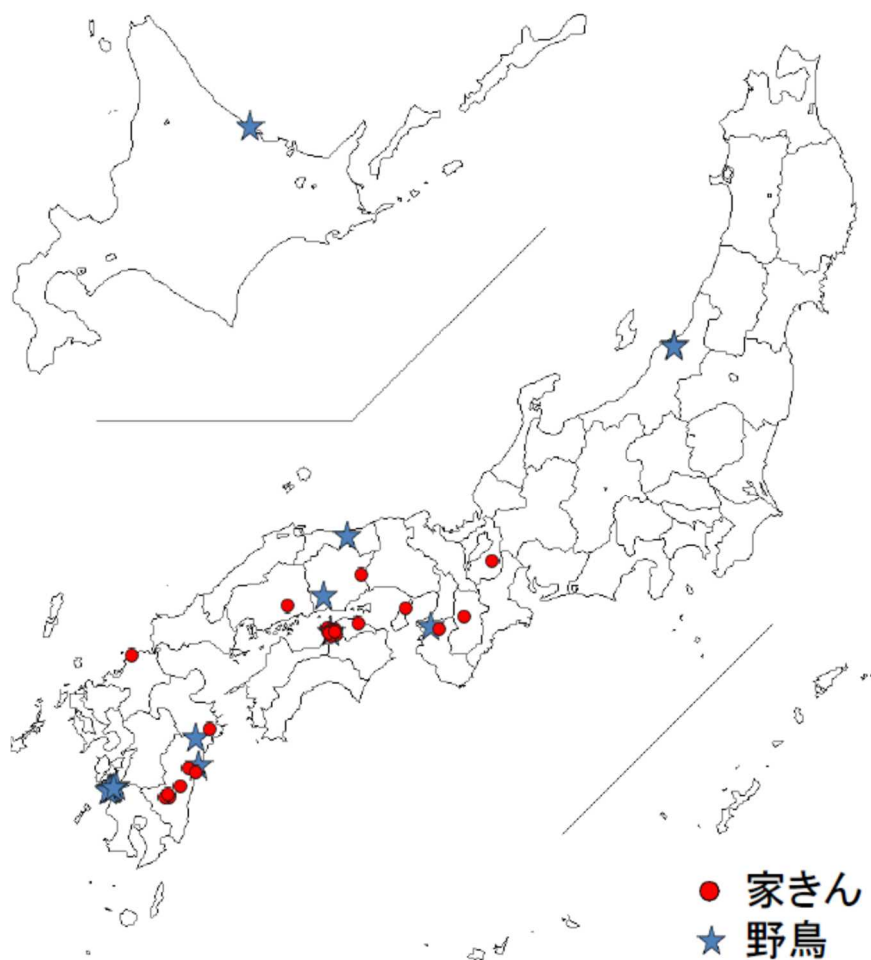
コロナの影響でオンライン会議などが急速に普及してきましたが、何となく臨場感に欠けるきらいがあると感じます。そんな中、牛はスピーカーを通して録音された声よりも、実際に話しかけた方がリラックスしているようだとのウィーン獣医科大学での研究がありました（Frontiers in Psychology Oct. 2020）。科学実験には重要な原則である「標準化」として知られる概念に従って、各試験区で条件が可能な限り同じであることが求められます。例えば音声の試験では、肉声で同じフレーズを同じ方法で繰り返すことは難しいです。そのため録音をして、繰り返し流すことが最も一般的な試験方法として採用されています。そんな中、録音された声と、牛に直接話しかけている声とを比べて、牛の反応に差があるのかどうかについて比較検討したそうです。28頭の牛を用いて、実験者の声の録音を再生しながら牛を撫でることと、牛に直接話しかけて撫でたりすることの違いを比較しました。その結果、牛に直接話しかけると心拍変動が大きくなり、楽しんでいる（？）ことがわかりました。その試験後、心拍数は録音された声を聞いた後よりも低くなり、ライブチャットの後では、牛達はよりリラックスしていることを示していました。

牛に実際に声をかけることは、牛にとって最高の気分向上剤になるようです。牛舎でラジオやクラシックをかけている農場は多いですが、やはり飼い主の愛情あふれる“生”の一言が大事であることが確認されたようです。

高病原性鳥インフルエンザについて

国内で高病原性鳥インフルエンザに分類される H5N8 型の発生が急速に拡大しています。11 月 5 日に香川県で発生しましたが、12 月 14 日現在では、10 県 26 事例まで急増しました。近畿・中四国・九州地域の養鶏農場では 350 万羽を超える殺処分となり、近年にない殺処分羽数になっています。また、野鳥では 7 道県 20 事例が報告されています。

それぞれの養鶏場では野鳥不侵入対策、飼料運搬車や従業員の消毒体制など、危機感を持って対応しています。弱っている野鳥や死んでいる野鳥を見かけたら触らないで、近くの家畜保健所などに通報してください。野鳥に対する小さな親切が、私たちの暮らしを破壊します。



ジャージー牛の新たな遺伝病

わが国ではメジャーな品種ではありませんが、米国ジャージー牛登録協会では Jersey Neuropathy (JNS) と知られる、新しい不良形質を発表しました。JNS の影響を受けた子牛はふくらはぎの伸筋硬直や過度の横方向外転を示す前肢の開脚によって、起立することが不可能となります。発症牛は出生時には特に異常を認めませんが、その後に頭頸部の攣縮やけいれん行動などの神経学的症状も示します。その他の症状としては、肩関節脱臼、変性性脊髄症などがあります。

JNS は 6 番染色体上に位置し、ジャージー牛集団の約 6% が保因牛であると報告されています。劣性遺伝子ですので、ホモにならない限り症状は現れません。

お知らせ

印刷用の PDF ファイル

印刷用に PDF ファイルを添付しました。PDF ファイルをご利用いただくためには、Adobe Reader が必要です。お持ちでない場合、[こちらからダウンロードし、インストールしてご利用ください](#)。

メールマガジンへの登録・質問等

メールマガジンの配信の停止、登録内容の変更等は[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

このメールマガジンへのお問い合わせ、ご意見・ご要望等、並びに技術的な問題等がございましたら、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メーリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしく申し上げます。

また、今後の配信が不要な場合にも[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。

QR コード

このメールマガジンを紙媒体でお読みの方が、容易に[当社のウェブサイト](#)のトップページにアクセスできるように QR コードを添付しました。

